

学生確保の見通しを記載した書類

目次

(1) 新設組織の概要	
①新設組織の概要	．．．．． P2
②新設組織の特色	．．．．． P2
(2) 人材需要の社会的な動向等	
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	．．．．． P3
②入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	．．．．． P6
③新設組織の主な学生募集地域	．．．．． P7
④既設組織の定員充足の状況	．．．．． P8
(3) 学生確保の見通し	
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	．．．．． P9
②競合校の状況分析	．．．．． P15
③先行事例分析	．．．．． P17
④学生確保に関するアンケート調査	．．．．． P17
⑤人材需要に関するアンケート調査	．．．．． P23
(4) 新設組織の定員設定の理由	．．．．． P24

学生確保の見通しを記載した書類

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要 (名称、入学定員、収容定員、所在地)

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
亀田医療大学大学院看護学研究科 看護学専攻博士後期課程	3	9	千葉県鴨川市横渚 462

②新設組織の特色

本学は、平成 24(2012)年に開学し、看護学部を開設、特に看護の実践能力を強化することを主眼として教育を実施してきた。この学部教育をより高度化するために、平成 31(2019)年 4 月に修士課程を開設したが、修士課程設置当初より、博士課程の開設を計画していた。

本学大学院は、「看護医療分野に関する学術の理論及び応用を教授研究し、深い学識及び卓越した教育・研究・実践能力を培い、看護学及び医科学の発展と地域社会における人々の健康と福祉の向上に寄与すること」(亀田医療大学大学院学則 1 条)を目的として開設された。またこの目的に基づき、「HEART」に表される《**Humanity：人間への愛と尊厳、 Empowerment：個人に内在する力の向上、 Autonomy：自律性と専門性、 Reason：理性、 Team：チーム医療**》の 5 つの理念を掲げて、これまで学部・大学院看護学研究科修士課程教育を行ってきた。修士課程では、地域の保健医療福祉ニーズの多様化・複雑化・高度化に対応できる看護職の能力向上を図り、看護管理学、実践看護学、ウィメンズヘルス・助産学の 3 つの領域において**教育・研究能力を備えた看護実践者の育成**を目指し教育を行ってきた。

このたび開設する博士課程では、修士課程の土台の上に、これまで同様の大学院の目的と理念のもとに、さらに高度な教育・研究能力と実践能力を持ち現場を変革することのできる看護管理者を含む高度看護実践者を育成することを目的とする。

上記のように本学では、学部教育、大学院看護学研究科修士課程教育(予定：博士前期課程)の土台の上に、博士後期課程を開設する予定である。この度申請する博士後期課程は看護学専攻とし、領域として「実践看護学」の 1 領域のみを置き、**実践看護学博士(DNP:Doctor of Nursing Practice)**を育成する。これを**実践看護学博士コース**(以下、**DNP コース**)と呼び、**大学院看護学研究科博士後期課程看護学専攻実践看護学分野実践看護学領域**として、修了生には「**博士(看護学)**」(Doctor of Nursing Practice)の学位を授与する。

実践看護学領域を置く趣旨は、県内の医療ニーズ、看護師の就業状況、看護教育の現状などの状況分析から、現場の課題を解決し現場を変革することのできる人材、さらに高度な実践力と教育・研究能力を持ち合わせた高度な看護実践者の育成が急務であるからである。

この教育課程では、以下のような人材を養成する予定である。

【養成する人材像】本学の掲げる HEART の理念を基盤に、高い倫理観を持ち、科学的な根拠に基づいた高度な看護実践を展開できる者、新たな看護実践を開拓できる者、柔軟な思考と発想力をもって実践および研究を通して現場を変革できる者、実践と研究能力によりリーダーシップを発揮できる者、研究成果を活かすことで看護実践の質の向上・改善と学術的發展に寄与できる者を育成することとした。

(2) 人材需要の社会的動向

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

〔全国的・地域的動向〕

千葉県における人口 10 万対看護職員就業者数は、全国で 46 位と極めて低く¹、さらに南房総地域での看護師は、その約 1/4 が准看護師で占められており、看護師数の確保と看護の質向上に向けた人材育成がこの地域の大きな課題となっている²。

現在、千葉県内で、看護系大学の入学定員は 1,855 名となっているが³、現就業者に大学卒業生、大学院修士課程修了生、博士課程修了生が占める数を示すデータはなく、博士課程への入学意向を持つと想定される修士課程修了者の数を正確に把握することができない。

そこで、以下では、全国の大学院の動向、特に保健系大学院の動向、看護系大学および大学院の動向、および DNP コースに進学が見込まれる専門看護師等の動向から、人材の全国的、地域的動向および需要の見込みについて分析することとする。

¹ 令和 2 年現在、千葉県就業看護職員数：61,122 人、うち准看護師：9,024 人(14.8%)、厚生労働省「医療施設（静態）調査(令和 2 年)」

² 令和 2 年度千葉県看護の現況

³ 2023 年度日本看護系大学協議会定時社員総会情報交換会 文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官資料

a. 全国の大学院の動向

令和 5 年度の全国の私立大学院の動向の特徴として、修士課程および博士前期課程では、前年度から 2,323 人入学者が増加していることが報告されている。また博士課程に焦点を当てると、博士課程及び博士後期課程の入学者数は、287 人増加して 4,365 人になったことが報告されている。また、系統区分別に見た、私立大学の保健系の博士課程および博士後期課程の動向として、令和 5 年度は、前年度に比べ、入学定員 (465→486：21 人増)、志願者数 (368→418：50 人増)、入学者数 (325→371：46 人増) のすべてにおいて増加している⁴。

このように、全国的にみても、大学院教育へのニーズが高まっていることが確認できるとともに、特に看護学を含む保健系の学問分野において、入学者の増加が確認でき、博士課程教育への一定の

ニーズがあることが確認できる。

4 令和5（2023）年度私立大学・短期大学等入学志願動向、日本私立学校振興・共済事業団

b. 看護系大学・大学院の動向と千葉県の現況

看護教育機関に占める看護系大学の割合は、過去 20 年間で急増しており（養成課程数：H14 8.7%→R4 28.2%、入学定員：H14 3.1%→R4 38.5%）、令和5年現在、全国に283大学300課程の看護系大学が存在し、入学定員は26,023人で、看護師国家試験の合格者（R.5年3月）に占める大学卒業者の割合は、40.8%となっている。このうち、千葉県では、国立大学1校、公立大学1校、私立大学17校、計19の大学があり、入学定員の合計は1,855名となっている³。

大学卒業者の増加につれて、大学院への進学者も増加しており、令和5年現在、全国の看護系修士課程数は206大学214課程（定員3,117人）、博士課程数は111大学115課程（定員667人）となっており、約20年前の平成14年には、修士課程53大学、博士課程16大学であること³から見ると、急激に大学院教育を行う大学およびそこで学ぶ学生数は増えており、看護界での大学院教育へのニーズの高まりを確認することができる。

このうち、千葉県で看護学の修士課程を有する大学は6校（総定員80名）であるが、多くが千葉県北部の東京近郊に集中しており、千葉県の南部を擁する広大な南房総地域にある看護系大学院修士課程は、三育学院大学大学院と本校の2校にあるのみである（資料1：千葉県看護大学・大学院プロット図）。また、南房総地域で専門看護師コース、およびナース・プラクティショナー（JANPU-NP）コースを有する大学院は、本亀田医療大学大学院のみである。全国の看護系大学院修士課程修了者の進路状況（令和4年修了生）をみると、博士課程進学者が9%、医療機関就職者が71%であり³、医療機関への就職者が多いのは、本学の修士課程修了生と同じ傾向である。具体的には本学では、2019年の開設から2023年の4年間に、21名の修了生を輩出、うち13名（62%）が病院等の医療現場に就職している（なお、2024年3月には9名の院生が修了予定で、開設以来30名の修了生となる見込みである）。（資料2：本学大学院修士課程修了生数（2022～2023））

したがって、本学大学院で高度実践看護師としての学修を積み、高度実践看護師資格を取得した者や、看護管理者として実践で活躍する者にも、博士課程への進学を確保することが重要であるとともに、医療機関で働く者に焦点を置いた、現場の変革のための研究・実践能力を高めるDNP教育のような教育が求められていると考えられる。

しかしながら、千葉県で看護学の博士課程があるのは、千葉大学看護学研究科および順天堂大学医療看護学研究科の2校（入学定員・計19人）のみであり、千葉県南部には、看護学の博士課程を有する教育機関は存在していない。したがって、千葉県南部で博士課程教育を受けようとする看護師等は、遠隔地となる県北や東京都内の大学院での履修を強いられ、地理的条件から博士号取得は極めて困難をきたしている。またその結果、千葉県南部には博士号を有した看護師が少ないと見込まれ、現場の変革能力を有した高度な研究・実践能力を兼ね備えた人材が求められていると考えられる。

一方、この度本学で開設しようとしている DNP コースの博士課程教育は、日本ではまた端緒に着いたばかりであり、現在、聖路加国際大学看護学研究科（在・東京）、北里大学大学院看護学研究科（在・神奈川）の2校のみが開設しており、令和6年4月より開設が予定されている国際医療福祉大学大学院保健医療学研究科（在・東京）を入れて、ようやく3校となる。したがって、DNP コースで博士号を取得したいと望む場合も、千葉県の特に南部では教育を受けることが困難な状況にある。

また、同じ DNP コースでも、聖路加国際大学看護学研究科と北里大学看護学研究科では、主に高度実践看護師資格を有する者をターゲットにしており、一方、国際医療福祉大学大学院では、看護管理者をターゲットにしているが、本学は、高度実践者と看護管理者の双方を入学者のターゲットにしている点で特色があり、幅広い受験者に門戸を開くようにしている。

なお、各校の定員・志願者・入学者数の動向として、聖路加国際大学看護学研究科の DNP コースは、定員を10名としており、DNP コース開設以来、1名～5名（平均3.4名）の入学者が入学している。しかし、定員10名という設定に対しては充足率は低迷している。また、北里大学大学院看護学研究科は、2023年度に DNP コースを開設し、開設1年目の本年度は、入学生2名と報告されている。国際医療福祉大学大学院は、2024年度開設であり、まだ入学生数は不明である。

以上の他大学院 DNP コースの入学者の動向、および後述する本学が実施した博士課程へのニーズ調査での「入学志望者」の数から、本学が設定している入学定員3名はほぼ妥当な数と思われる。また高齢化の進展が著しい反面、看護師数が乏しく、質量ともに看護師の確保が求められる地域の状況からも、実践看護学博士（DNP）を取得した看護師の需要は十分あると見込まれる。

- 5 聖路加国際大学／北里大学／国際医療福祉大学共催シンポジウム「Doctor of Nursing Practice を知ろう」2023年9月1日・資料
- 6 （聖路加国際大学大学院看護学研究科2023年度募集要項より）（聖路加国際大学／北里大学／国際医療福祉大学共催シンポジウム「Doctor of Nursing Practice を知ろう」2023年9月1日・資料）

c. 高度実践看護師の動向

〔社会的動向〕

社会的動向としては、少子高齢化や医師不足を背景として、2024年4月に施行される「医師の働き方改革」により、看護師を始めとした多職種への「タスクシフト・タスクシェア」が実施されることになっている。こうした動向の中で、2015年より特定行為研修制度が開始され、高度救急医療から在宅医療に関わる看護師の役割拡大が期待されている。しかしながら、今後見込まれる少子超高齢多死社会では、「医師の指示のもとでの診療の補助」を越えない仕組みである特定行為研修制度だけでは対応できない国民の医療ニーズがあることも明らかにされており、令和2年9月には、日本看護協会、日本看護連盟、日本看護系大学協議会、日本NP教育大学協議会が連名で、自民党看護問題小委員会に「ナース・プラクティショナー（仮称）制度の創設に関する要望書」（資料3）を提出している。

このように、少子超高齢化、医師不足、地域包括ケアの推進による在宅医療の増大などを背景として、諸外国ではすでに幅広く導入されているナース・プラクティショナー（仮称）制度を望む声や、大学院教育を前提とした診療看護師（NP）の育成（2023年現在、13教育課程で実施、759名の資格者）など、高度実践看護師教育は、国民のニーズに応えるべく着実に進んできている。

一方、1995年から日本看護協会で開催された専門看護師制度も、2023年現在107大学大学院327教育課程で教育が展開されており、3,155人の資格者がすでにおり、臨床や地域で医療の質の向上に貢献しているところである。このうち、千葉県では2022年12月現在、129名の専門看護師資格者がいる。医師不足と国民の医療ニーズの高まりを背景として、専門看護師やナース・プラクティショナーなどの高度実践看護師への期待は、今後ますます高まるものと予測される。

本学でも修士課程において、高度実践看護師コースを置き、専門看護師やナース・プラクティショナー（JANPU-NP）を育成するコースを展開しているが、今後は、これを修了して資格を取得した高度実践看護師たちが直面するであろう現場の問題に対応できるような研究知識を備え、実践と教育・研究ができるよう、さらに高度な実践力や研究能力を備えられるような教育を準備していくことが必要とされる。

すでに米国では、看護学の博士号では、学術博士（PhD）の教育課程よりもDNPの教育課程の方が多いと報告されている（DNP：289校、PhD：133校、DNPプログラムの在籍者数：2万1995名、2015年時点）⁷が、日常の看護実践にエビデンスや科学的に実証された知見を体系的に取り入れて、看護の実践研究（**実装研究**）を通して、医療ケアの質の向上および有効性を向上させることを目指す能力を有したDNP（実践看護学博士）は、日本のこれからの保健医療にとって欠くことのできない有用な人材であると思われる、このような人材を育成することは、日本にとって急務と言える。

DNPを取得した人は、組織のリーダーシップや、プログラム管理、医療管理、医療政策の実施、および高度看護実践を行うとされるが、DNPを取得した看護師が管理的な立場に立つことで、持続可能で費用対効果の高い、根拠に基づいたケアプログラムを実施することができるようになる。DNPは高度な実践を提供できるというだけでなく、有効なケア体制の確立のために管理的立場を活用することもでき、看護管理者へのDNP教育も望まれるところである。

特に高齢化の進展が著しい南房総地域で、研究能力をもって看護実践のリーダーシップをとり、多職種と連携しながら現場の変革を推進できる看護管理者を含む看護実践者を育成することは、喫緊の課題である。それにより、高度医療機関の看護の質の向上はもとより、医療過疎化する地域に点在する中小病院や訪問看護ステーションにおいて質の高いケアを実現し、さらには医療施設と地域のシームレスな連携を実現することが可能となると思われる。

⁷ 余善愛：米国におけるDNPの現状と課題、看護研究、50(1)、2017

②入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

入学対象人口として想定されるのは、修士課程修了者、特に高度実践看護師資格（専門看護師等）を有している者と想定される。しかし、冒頭でも述べたように、現就業者に大学院修士課程修了者

が占める数を示すデータはなく、博士課程への入学意向を持つと想定される修士課程修了者の数を正確に把握することができない。そこで、本学が予定している DNP コースへの関心が高いと想定される専門看護師の動向から、入学対象人口の動向の分析としたい。

2023 年度現在、専門看護師教育機関は 107 大学であり、327 の教育課程がある。日本看護協会が認定する専門看護師は、2022 年 12 月末現在、3,155 人と報告されており、1999 年の制度創設以来、増え続けている。このうち、千葉県では、2023 年現在、129 人の専門看護師が登録している⁸。これらの 129 人の専門看護師の中にすでに博士号を取得している者も含まれる可能性はあるが、まず、これら 129 人の千葉県の専門看護師は、本学大学院博士後期課程の入学対象人口として、最有力候補である。したがって、後述する博士課程進学へのニーズ調査でも、千葉県の専門看護師登録者で所属先等を公表している者 109 名のうち、住所が確認できた 108 名を対象に含めたが、その中に「本学大学院に入学を希望する」と回答した者が複数名おり、この集団からの入学者がある程度見込まれるものと推測される。

このほか、本学の大学院博士後期課程では、看護スタッフや看護管理者も入学対象者としている。そこでやはり後述するニーズ調査において、実習病院を中心とした南房総地域の病院に勤務する看護者・看護管理者への調査を実施し、上記と同じく一定の入学希望者を確認できている。

また先にも述べたように、本学では、2019 年の修士課程開設から 2023 年の 4 年間に、21 名の修了生を輩出し、2024 年 3 月には 9 名の院生が修了予定であり、開設以来 30 名の修了生となる見込みである。これら修了生も本学の入学対象者として有力候補であり、同じくニーズ調査でも一定の入学希望者を確認できている。

千葉県で看護学の修士課程を有する大学は 6 校（定員 80 名）⁹あるが、その中でも今後博士課程を準備しようとする大学があることと思われ、そうした大学にとっては博士号を有した教員がぜひとも必要である。しかし、本学を含む千葉県内の大学に勤務する教員の中にも、まだ博士号を取得していない者が含まれている可能性は大きく、これら教員の中からも、本学の博士課程への一定の入学者が見込まれるものと思われ、同じくニーズ調査の対象者とし、一定のニーズを確認できている。

以上から、千葉県を中心として専門看護師資格取得者、病院看護スタッフ、看護管理者、本学大学院修士課程修了者、千葉県内の看護教員を中心として、そのほか、首都圏域の同様の対象者から、本学の入学定員 3 名を確保できると見込んでいる。

⁸ 日本看護協会専門看護師 | 看護職の皆さまへ | 公益社団法人日本看護協会 (nurse.or.jp)

③新設組織の主な学生募集地域

この度申請する博士課程では、学生募集地域として千葉県を中心とした首都圏全域を設定している。その理由として、これまでも述べたように、千葉県では看護学の博士課程が 2 校しかなく、特に南房総地域には 1 校もないため、まず近隣の看護師のニーズに応えることが必要であると考えたからである。

さらに、DNP コースは、全国でも他に 3 校しかなく、いずれも千葉県からの通学は難しい地域にあるため、地元のニーズに応える必要があると考えたためである。

これまでの修士課程入学者の実績からも、入学者 53 名のうち、鴨川市からの入学者が 36 名と一番多く、その他、鴨川市を除く千葉県内からが 12 名、千葉県外が 5 名であり、本学が千葉県を中心と設定することは、妥当であると考える。しかしながら、本学の博士課程の教育では、ハイブリッドやオンラインを活用し教育を行うため、基本的には、遠方であっても履修は可能であるため、首都圏域を設定した。後述するニーズ調査でも、東京都、神奈川県からの入学希望者も複数名あり、首都圏域の設定は現実的であると考ええる。

また、本学入学者には社会人を想定しているが、修士課程でもすでに実施しているように、14 条特例を実施し、社会人であっても学びやすいように、土曜日、夜間、夏季集中などの開講の工夫をする予定であり、ハイブリッド方式と組み合わせることで、千葉県を中心とした首都圏全域を学生募集地域として設定することが可能であると考ええる。

千葉県の看護学研究科博士課程を有する 2 大学の定員充足状況は、[別紙 1-1] に示す通りであり、千葉大学大学院看護学研究科も、順天堂大学医療看護学研究科も、直近 3 年間の定員充足率は高い数値を維持しており、千葉県全体においても博士課程進学希望者は一定数見込まれると推測され、学生募集地域を千葉県を中心としたことは妥当であると考える。

研究科系統区分別にみた私立大学大学院博士課程（保健系）の定員充足状況を [別紙 1-2] に示す。[別紙 1-2] に示した通り、研究科系統別に見た保健系の定員充足状況もおおむね 7 割と好調であり、保健系の博士課程進学へのニーズが確認できる。

[別紙 1-1] 千葉県における看護学の博士課程の直近 3 年間の定員充足状況

[別紙 1-2] 研究科系統区分別博士課程（保健系・私立大学大学院）の直近 3 年間の定員充足状況

④既設組織の定員充足の状況

本学看護学部看護学科の直近 5 年間の定員充足状況を [別紙 2-1] に示す。別紙 2-1 に示した通り、本学の学部入学定員充足率は、過去 5 年間で、平均 0.93% を維持している。2022 年度入試では、18 歳以下の若年人口が減少し、経済的にも世帯収入の低い南房総地域では、とりわけコロナ禍の影響を受け、定員を割り込む結果となったが、2023 年度入試では、自己点検・評価のもと、各種の PR 活動をより活発化させるとともに、10 周年記念事業としての入学金ゼロのキャンペーンを行い、一定の入学者を確保できている。しかしながら、南房総地域での入学者の獲得には困難が伴うため、今後も広報活動を含め、提携校の獲得や指定校の見直し等、入学者獲得のためのさまざまな方策を検討中である。

なお、本学修士課程のこれまでの定員充足率は [別紙 2-2] に示す通りである。別紙 2-2 に示す通り、学部の定員充足率の実績、修士課程の定員充足率の実績からみて、本学の設定する博士後期課程の定員 3 名は、十分達成可能な数と見込んでいる。

〔別紙 2-1〕 本学看護学部看護学科の直近 5 年間の定員充足状況

〔別紙 2-2〕 亀田医療大学大学院看護学研究科修士課程 開設以来 5 年間の入学定員充足率

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア. 既設組織における取組とその目標

本学看護学部における学生確保の PR 活動は、大別して①オープンキャンパス、②高等学校訪問、③高等学校への出張講義、④大学説明会や相談会の開催、⑤大学案内の配布および進学冊子への学生募集の掲載 ⑥ホームページによる大学案内の公開、およびキャンパスでの催しなどの SNS 等の発信を実施している。〔別紙 3〕に既設組織における取組の実績の表を掲載した。順に詳細を述べる。

①オープンキャンパスの実績

オープンキャンパスの実績は〔別紙 3 表 1〕に示した。それによれば、来場者数は 100～150 名であるが、そのうち実際に本学を受験した者は 60～80 名となっている。令和 5 年度入試の実績では 61%の受験率で、そのうち実際に入学した者（入学率）は 58%と、いずれも 6 割前後という高い数値となっている。

オープンキャンパスは、入学希望者と大学関係者が直接出会う機会として、PR 活動の中で最も力を入れて開催している活動である。入学希望者が本学でどのような学びや成長が期待できるかがイメージできるよう来場者のアンケートを基に毎年、様々な企画を更新しながら開催している。主な企画は、キャンパス内での模擬講義のほか、看護体験、在学生及び教員との相談会など交流を含め、看護学への関心を高めるとともに大学生活を理解できるように工夫している。また亀田メディカルセンターの病院見学により看護実践の学びの場、及び将来の職場として先端医療を提供する医療現場の視察をできるようにし入学希望者の動議付けとなるようにしている。

キャンパスの案内や病院案内では学生のボランティアを活用し、学生目線で大学の特徴を語ってもらいながら交流を深め、本学への関心と親近感を持つことができるような企画をしている。保護者には奨学金制度の説明や宿舍の案内、学生の相談体制など学生生活の保障制度の案内をするとともに、海外留学をはじめ国際交流事業等によるグローバルな視座での学びができること、また卒業後の就職率はほぼ 100%で大学院進学など看護専門職としての生涯学習環境の整備があることを本学の特徴として説明している。

②高等学校訪問の実績

高等学校訪問は指定校および在学学生の出身校に訪問している。令和 4 年度は 97 校、令和 5 年度は 103 校に訪問した。高等学校訪問は受験者・入学者の個人名による実績把握はできないが、受

験者及び入学者の出身高校から割り出した数値を〔別紙3表2〕に示した。それによれば、高等学校訪問は受験率50%を超えており、入学率は令和4年度が32%、令和5年度は47%と高値となっている。教員一人当たり4校から5校を担当し、高等学校の進路指導の担当教員との情報交換を円滑にするよう、できるだけ同じ教員が訪問するような体制を組んでいる。

高等学校訪問では、募集要項やオープンキャンパスの開催ポスターなど入学希望者に直接配布していただけるよう進学指導担当の教諭に面談している。面談では生徒の大学進学における看護学部への関心や意向傾向などを伺い、本学受験にむけた指導を推進していただけるようお願いしている。特に本学は私学のため学費が高額である。そのため、奨学金制度の活用例を紹介している。また本学は地理的に都心から離れているため、木更津、君津からのスクールバスの運行や学生専用の住居の斡旋など、重要な情報提供を行っている。一方、都心から離れた場での恵まれた学習環境や人間性をはぐくむ地域性、文化的交流の豊かさがあることも同時に説明している。

③高等学校へ出張講義

高等学校へ出張講義の実績を〔別紙3表3〕に示した。依頼のあった高校の1、2年生を対象に看護学への関心を深めるために、出張講義を毎年14～15校に実施している。福祉医療コースなど高等学校等の授業の一環としての開催が多く、出席者を特定できないため、入学者数の把握は困難である。

講義は、看護の仕事の楽しさ、厳しさ、苦勞する点、高卒で就職する場合と進学後に就職する場合の違い(キャリアモデル)、必要となる資格、技能、適性、高校時代に学んでおくべきことなどのテーマで実施している。

④大学説明会や大学院入学相談会の開催実績

看護学部への受験希望者へのオンライン及び対面での相談会の実施数は〔別紙3表4〕に示す通りである。いずれも20件前後開催している。相談者が受験や入学に至ったかは、把握できていないが、これらの受験希望者には随時対応し、キャンパス内の案内やカリキュラムなど学生生活全般についての質問に応じている。

また、大学院修士課程に入学を希望する者へのオンライン及び対面での相談者数は〔別紙3表5〕に示す通りである。受験率は100%であり入学率も約90%と高値である。大学院修士課程の開設以来過去5年間の入学定員充足率は、定員10名に対して、106%と定員を満たしている〔別紙2-2〕。よって説明会・相談会は大学院修士課程の受験・入学希望者には、重要な機会となっていることがわかる。説明会・相談会では専攻する専門領域の教授と直接面談する機会を設けており、進学動機や研究テーマをはじめ、大学院における実践看護学コースの概要説明や高度実践看護師コースの実習についてなど、より詳細な情報提供し進学動機を確かなものになるよう努めている。なお、これら入学希望者には気軽にキャンパス内に施設見学や入試相談等を実施できる体制を整えている。

⑤大学案内や学生募集要項等の配布及び進学雑誌のへの掲載実績

大学案内や学生募集要項等の資料請求数、資料請求者等に郵送する大学情報誌等の配布数は毎年4,000人以上である。受験率、入学率はいずれも10%未満であるが、本学に関心のある生徒やその関係者の求めに応じて広範に資料の配布を行い、本学の周知に努めている。

⑥ホームページ（HP）による大学案内の公開、およびキャンパスでの催しなどのSNS等の発信

各種SNS（LINE、Twitter、Instagram）で大学入試、オープンキャンパスの告知や在学者の講義風景等を投稿している。

HPは入学者にとって重要な情報源となっているため、入学希望者がHPを通じて、本学の特徴を知り、入試情報を適確に取得するため、より分かりやすいHPに刷新するとともに、新しい情報を随時更新し、大学情報の発信・広報ツールとして、今後もHPを有効活用していく。

以上、これらの学生確保のPR活動は広報委員会を中心に全教職員が役割分担し体制を整えている。その成果として受験者・入学者が獲得できている。中でもオープンキャンパスは最も手堅い広報戦略であり、力を入れるべきPR活動と考えている。

よって、現在の計画では、オープンキャンパスは回数を5回から6回に増やす計画である。直近過去5年間（平成31～令和5年度入試）の学部学生の入学定員充足率の平均0.93%〔別紙2-1〕を維持しつつ、定員を満たすことを目標に教職員一丸となって広報活動を強化していく。

〔別紙3〕既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

イ. 新設組織における取組とその目標

新設組織における学生募集のためのPR活動について、既設組織で行ってきたPR活動を継続しつつ、新たに設置する大学院博士課程のPR活動を加える。

その取り組みの目標は、

- ①実践看護学博士（DNP）コースとしての新設組織の設置趣旨と意義を周知する
- ②実践看護学博士（DNP）コースの具体的内容について情報提供する
- ③①②により、入学定員を満たし、なおかつ持続的に定員充足が見込めるよう受験者を確保するの3点である。

学生確保のためのPR戦略として、新設組織の開設準備段階においてPR活動を実施した。また、これまで既設組織でおこなってきたPR活動を踏まえた今後の活動を計画している。順に説明する。

〔新設組織の開設準備段階におけるPR活動〕

①関連法人亀田総合病院の看護管理者を対象とした博士課程開設に向けた説明会

令和5年9月28日16:00～17:00 毎月実施される師長会の後の時間に、研究科長、学部長（看

護管理学教授)が出向き、既設組織の説明とともに新設組織の設置趣旨と構想について説明会を実施した。説明会配布資料を示す。(資料4-1:設置計画概要、資料4-2:博士課程開設に向けた説明会資料)

参加者は総計44名で、いずれも中堅以上の管理職であった。説明後の質疑では、受験資格、取得できる資格、開講領域、開講時間、奨学金、学納金に関することに加え、具体的な受験に向けての詳細情報を求める質問もあり、大学院博士後期課程開設に強い関心が示された。

②本学大学院在学学生および本学教員への説明会(資料4-1:設置計画概要、資料4-2:博士課程開設に向けた説明会資料)

令和5年10月11日に、本学大学院生および本学教員を対象に新設予定の博士課程の設置趣旨と構想について説明会を実施した。参加した大学院生および本学教員は総計41名であった。情報提供が主となったが学生は大学院博士後期課程の新設に関心を示し、数年後の将来計画の情報としていいという意見が聞かれた。本学教員は助教や講師の参加者があり、設置される実践看護学コース(DNPコース)理解につながると同時に実践看護学博士の学位取得という新たな選択肢が広がることへの期待が示された。

③FD/SDによる講演会の開催及び参加

a.デザイン思考法のワークショップの開催(資料5)

令和5年7月22日(土)9:00-12:00 亀田医療大学、亀田医療大学総合研究所、亀田総合病院臨床看護教育研究センター共催で実施した。参加者は亀田総合病院の看護師と本学教員あわせて30名であった。講師には早稲田大学ビジネススクール(大学院経営管理研究科)教授 大滝 令嗣先生を招いて、新設組織の教育課程の特色として位置付けているデザイン思考法について、その概念と活用方法を理解し体験する機会を設けた。参加者は病院関係者15名、大学教員15名の計30名で、ワークショップ形式で実施した。

アンケートには、教員10名、看護部15名が回答し、結果は、「とてもよかった」という好評価が9割を占め、自由記述では「人間がよりよく生き、生活していける未来を創り出すために、デザインする力が必須能力の一つであることが、良くわかりました」「デザイン思考を通してあらためて患者中心の医療を考えることができた」「看護部と大学の教員との交流ができて良かった」などが挙がっており、新設組織の教育課程の特色として位置付ける意義を確認できた。

b.「博士課程DNPコースについて」のSD講演会(資料6)

令和5年2023年7月27日(木)16:00-17:30 本学教職員及び大学院生に向けて、DNP(Doctor of Nursing Practice)コースについて、その概要や米国をはじめとした海外での現状について知る機会として講演会を開催した。講師には東京慈恵会医科大学の中村美鈴教授を招いた。参加者は、44名(教職員36名、大学院生7名、病院看護部関係者1名)であった。

アンケートに回答したのは、教員26名、事務職員6名で教職員にとって実践看護学博士(DNP)の内容と存在意義を知る機会となった。アンケート結果では、「とてもよかった」「よかった」と回

答した人が73%で、「DNPについて、深く理解できた」「アメリカと日本の動向も交えたわかりやすいお話で、NPや診療看護師、そしてDNPについて詳しく学ぶことができた」の記載があった。以上より、本講演会は、教職員全体が新設組織におけるDNPコースの教育課程についての理解を得る機会として効果的であったと考える。

〔今後のPR活動〕

PR活動の実施概要として、既設組織におけるPR活動である①オープンキャンパス、②高等学校訪問、③高等学校への出張講義、④大学説明会や相談会の開催、⑤大学案内の配布および進学冊子への学生募集の掲載 ⑥ホームページによる大学案内の公開、およびキャンパスでの催しなどのSNS等の発信を継続的に実施する。その際、新設組織についての情報を新着情報として発信する。とりわけ、入学希望者がまず情報を得るHPのトップページで表示し、新設組織についての説明や募集案内を知ることができるようにする。さらに、従来のオープンキャンパスや大学説明や相談会の開催と同じく、入学希望者が直接相談できる場を設けることを軸として、タイムリーなPR活動を行うようにする。特に設置認可直後より、ニーズ調査対象者には郵送で、オープンキャンパス日程や相談会の案内、さらに募集案内を配布する。

新設組織のPR活動の実施計画と目標について、〔別紙3表1～7〕の「②過去の取り組み実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析」の部分に記載した。

以下では、オープンキャンパスと説明会・相談会の実施、ならびに募集要項の配布等について述べる。

①オープンキャンパスでの新設組織のブースの設置

令和6年度は6回のオープンキャンパスが計画されている(5/19(日)、6/16(日)、7/27(土)、8/17(土)、9/8(日)、3/22(土))。オープンキャンパスでの新設組織のブースを設置し新設組織の教育概要ならびに募集概要の配布、相談会を実施する。

②大学説明会や相談会の開催

これまで同様、HPで開催の周知を図ると同時に希望者があれば随時受け付ける体制を整える。その他、PR活動のターゲットとして、ニーズ調査対象として選定した千葉県内の専門看護師、ならびに南房総地域の看護職、特に本学大学院修了生に向けた新設組織の設置趣旨や概要の周知を図り、新たなキャリアアップの選択肢として本学大学院に新設する実践看護学博士コースに関心を持ってもらうことを目標とする。

特に令和6年度は開設が認可された場合の告知と、12月の入試に向けての受験生確保に向けて、以下の説明会を実施する予定である。

- ・ 亀田総合病院の看護職：6月、8月に看護師長や主任看護師を対象に開催する
- ・ 大学院1年生・2年生、大学院修了生を対象に9月、10月に開催する

- ・千葉県内の専門看護師を対象とした Web 及び対面の説明会の開催：9月、10月に開催する

③大学案内の配布および進学冊子への学生募集の掲載

従来配布している大学案内の配布先に、新設組織の開設告知と募集要項を加え配布する。加えて、以下の PR 活動を行い、首都圏や全国に対象を広げ、広く周知を図り、オープンキャンパスへの来場、説明会・相談会への来場、問い合わせなどができるようにする。さらにそれぞれの実施結果を HP に掲載することで、将来的な入学希望者を獲得できるよう図る。

- ・オープンキャンパスの新設組織のブースでの大学案内の配布
- ・首都圏に勤務する専門看護師に新設組織の開設告知と募集案内、ならびにオープンキャンパスや Web 説明会の開催案内を郵送
- ・主要な看護専門雑誌（看護、看護展望等）に新設組織の開設告知と学生募集広告を掲載

④ホームページによる大学案内の公開、キャンパスでの催しなどの SNS 等の発信

開設が認可された場合、本学の HP に、新設組織の概要、募集案内に掲載している内容を掲載し、広く周知を図る。加えて、以下の掲載を行い、令和 6 年度の受験生が確保できるようにする。

- ・ホームページのトップページで新設組織の開設を告知する。
- ・オープンキャンパス、大学院説明会の日程や受付開始・方法について告知する。
- ・新設組織の開講科目の紹介や将来像がわかるようモデルとなる DNP の実践活動に関する情報を掲載する。
- ・新設組織の奨学金等の学生支援体制について情報提供を行う。

ウ. 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

ア、イの項で述べたように、これまでの PR 活動の取り組みは、学部においても大学院修士課程においても、一定の定員確保の実績につながっており、今後もこれまでの計画をさらに強化して広報活動を実施していく予定である。具体的には以下の取り組みから、それぞれの見込み数について述べる。

①オープンキャンパスでの新設組織のブースの設置

既設組織の学部受験生の実績では来場者数は、年間 60～80 名であったため、大学院修士・博士課程ではその 1 割強を見込み、来場者は年間 6～8 名と予測している。受験率入学率は学部では、6 割であったことを踏まえると、大学院受験生・入学生は、3～4 名を見込んでいる。

②大学説明会や相談会の開催

既設組織（修士課程）での大学院相談会での実績は、年 1 回の実施で 3～7 名であった。相談会に来場した者は 100%、受験し入学へとつながっていた。今後、大学院の相談会は、修士課程と博士課程の相談会を同時に開催するため、博士課程の相談会には少なくとも 2～3 名が来場すること

が予測され、相談会に来場した2～3名の受験者を見込んでいる。

以上から、これまでのPR活動の実績から、新設組織の入学定員3名の確保は妥当と考える。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア. 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、新設組織の優位性

〔競合校の選定理由〕

「(2) ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析の、b. 看護系大学・大学院の動向と千葉の現況」でも述べたように、千葉県にある看護系の博士課程は、千葉大学大学院看護学研究科と順天堂大学医療看護学研究科の2課程（入学定員・計19名）である。また、本学と同じDNPコースを有するのは、聖路加国際大学大学院看護学研究科、北里大学大学院看護学研究科、国際医療福祉大学大学院保健医療学研究科の3校である。

本学と地理的条件が重なる前者2校と、コース内容が重なる後者3校の計5校を、競合校として選定した。

〔競合校との比較分析、新設組織の優位性〕

①千葉県にある博士課程との比較

上述したように、千葉県で看護学の博士課程があるのは、千葉大学看護学研究科および順天堂大学医療看護学研究科の2校（入学定員・計19人）のみであり、千葉県南部には、看護学の博士課程を有する教育機関は存在していない。したがって、千葉県南部で博士課程教育を受けようとする看護師等は、遠隔地となる県北や東京都内の大学院での履修を強いられ、地理的条件から博士号取得は極めて困難をきたしている。またその結果、千葉県南部には博士号を有した看護師が少ないと見込まれ、現場の変革能力を有した高度な研究・実践能力を兼ね備えた人材が求められていると考えられる。

本学は千葉県南部に初めて博士課程教育を開始することから、千葉県を中心とした首都圏全域から学生募集を行うことで、これまで希望が叶わなかった千葉県南部を中心とした博士課程進学希望者への門戸を開くことにつながると考える。また、現在千葉県にある上記2校は、いずれも学術博士（PhD）の育成を掲げており、DNPの育成を目標とする本学とは、教育目標を異にしており、本学独自の特色を確認できる。

②DNPコースを有する大学院との比較

同じDNPコースでも、聖路加国際大学看護学研究科と北里大学看護学研究科では、主に高度実践看護師資格を有する者を入学者の対象にしており、一方、国際医療福祉大学大学院では、看護管理者を対象にしている⁶。それに比して本学は、高度実践者と看護管理者の双方を入学者のターゲットにしている点で特色があり、競合校ではあっても、立地条件や養成する人材像を異にしており、幅広い受験者に門戸を開くことが可能となっている。

また教育課程の特色として、本学では実装研究法のみならず、経済学や人間を中心としたシステムの変革を発想の基盤を置く、「デザイン思考法」を置いていることから、競合校にはない教育課程の特色を有している。このことから、本学の博士課程 DNP コースは競合校と共通する DNP の基本科目に加え、競合校にはない新しい発想で教育内容と方法を組み込んでいる点で新規性があり、学際的な特色ある人材育成を目指す点で優位性を有すると考える。

以上、競合校と比較し養成人材、教育内容と方法は本学独自の特色があると考え。さらに、次項イで確認する競合校の定員充足状況 [別紙 1-1] に鑑みても、本学が設定している入学定員 3 名はほぼ妥当な数であり、将来的にも安定的に学生の確保が見込めるものと考え。

イ. 競合校の入学志願動向等

千葉大学看護学研究科博士後期課程、および順天堂大学医療看護学研究科博士後期課程の入学定員充足率は、[別紙 1-1] に示した通りである。千葉大学においては、定員を十分満たしており、順天堂大学もほぼ定員を満たしており、令和 4 年度からは、それまで 10 名の定員を 12 名に増やしている。

現在、DNP コースを開設している 2 校の入学志願動向としては、聖路加国際大学は大学院看護学研究科 DNP コースは、(資料 7 : 聖路加国際大学大学院看護学研究科博士後期課程看護学専攻 DNP コース過去 5 年入試結果) に示す通り、定員 10 名に対して、1~5 名程度で平均 3.6 名の入学者となっており、定員は割れているが 3~4 名の入学生は確保できている状況である。北里大学大学院看護学研究科は、2023 年度に DNP コースを開設し、開設 1 年目にあたる 2023 年度の入学生は、定員 4 名に対して 2 名はである。したがって、2 校の入学者数としては、2~3 人程度となっている。

以上の競合校の志願者・入学者数、および定員充足数の推移をみると、本学の募集定員 3 名は、概ね妥当と考える。本学の学生募集地域は千葉県を中心とした首都圏全域であり、千葉県には看護学の博士課程を有する大学院は 2 校しかなく、特に南房総地域には皆無であるため、これらの競合校が対象とする看護師とは必ずしも重ならない。また、既設組織の修士課程の入学者を見ても鴨川市を中心とした南房総地域からの入学生であり、想定する入学者は競合校とは重複しないと考えられる。

さらに、既設の修士課程の入学定員充足率は平均 106%であり、修士課程修了者の博士課程への進学が期待されることから、博士課程への進学希望者が一定数あると見込まれる。

ウ. 新設組織において定員を充足できる根拠等 (競合校定員未充足の場合のみ)

千葉大学大学院看護学研究科、順天堂大学医療看護学研究科では、定員を満たしていたため、この項には該当しない。ただし、競合校のうち、聖路加国際大学大学院看護学研究科 DNP コースでは、定員を満たしていないが、定員設定を 10 名としており、本学の設定する 2~3 名には達している年度が多い。また北里大学大学院看護学研究科 DNP コースでは、定員 4 名に対して、2023 年度は 2 名の入学者があったことが報告されている。これらの状況から考えて、本学の設定する入学定

員3名はほぼ妥当と考える。

エ. 学生納付金等の金額設定の理由（資料8：DNPコース（博士後期課程）学納金設定に関する近隣校学納金等一覧表）

競合校として、地理的に条件に近い、千葉県にある千葉大学大学院と、順天堂大学大学院、さらに同じDNPコースを開設している聖路加国際大学大学院、北里大学大学院、国際医療福祉大学大学院の5校を選定した。これら5校の学生納付金を（資料8：DNPコース（博士後期課程）学納金設定に関する近隣校学納金等一覧表）のハイライト部分に示した。

初年度学納金を選定した競合校5校で比較すると、5大学の初年度平均学納金は112万9千円（入学金27万円）であった。最高値は聖路加国際大学165万円（入学金40万円）ついで、国際医療福祉大学の130万円（入学金30万円）となっており、最も低いのは、大規模な総合大学である順天堂大学で82万円（入学金20万円）で、国立大学の千葉大学92万円（入学金28万円）を下回っていた。

本学は、入学金30万円、授業料90万円、施設設備費（設備管理費等）30万円とし、初年度納入金は1,50万円と設定した。これは、競合校5校の平均を上回るが最高値を下回る学納金であり、私立大学の単科または単科に近い大学院としては、ほぼ平均的な額であり、現行の修士課程の学納金と揃える意味で、この額に設定した。

同じく（資料8：DNPコース（博士後期課程）学納金設定に関する近隣校学納金等一覧表）に、令和6年度入試に提示している首都圏の私立看護系大学大学院で博士課程を有する大学院（12大学）の初年度学納金とそれぞれの平均値を示した。その結果、首都圏の私立看護系大学大学院で博士課程を有する大学院の初年度平均学納金は、118万円（入学金26万円）であった。このうち、最も高額であったのは、東京保健医療大学の202万円（入学金50万円）、次いで日本赤十字看護大学の190万円（入学金40万円）、東京女子医科大学の150万円（入学金30万円）であり、本学が設定する初年度学納金1,500千円は、私立大学としては平均的であると考えられる。

なお、これまで同様、奨学金制度の活用等、学生支援は継続する予定である。また、この学生納付金の設定概要については、大学院設置構想に予定として提示した。

③先行事例分析

該当なし

④学生確保に関するアンケート調査

本学では、大学院博士課程への進学ニーズを把握するため、アンケート調査（無記名、選択肢式、自由回答記述式）を実施した。調査内容は、（資料9：亀田医療大学「大学院看護学研究科博士後期課程看護学専攻（DNPコース）」入学意向に関するアンケート調査）の通りである。

なお、アンケート調査の際、本学大学院博士課程DNPコースの設置計画概要（資料4-1：設置計画概要）を添付して実施した。

調査は、看護師・看護教員等を対象とした調査と、大学院生・大学院修了生を対象とした調査の2種類を実施した。以下、第1調査、第2調査として、述べる。

〔第1調査〕

〔調査期間〕 2023年10月31日から11月17日

〔回答方法〕 Micro soft Forms による Web 方式で行い、調査の任意性や個人情報の保護に十分配慮して実施した。

〔調査対象〕 病院管理者・看護部長、事業所管理者、現職の看護職者（保健師、助産師を含む）、千葉県内を所属施設とする専門看護師、看護教員

〔調査内容〕

1. 基本属性；性別、年齢、居住地、最終学歴、保有免許、所属、職位、専門的資格
2. 博士課程 DNP コースに関する項目；長期履修制度について、ハイブリット型教育について、構想や養成する人材について、受験の意向の有無とその理由
3. 病院および事業所施設に関する項目；看護職員数、大学院修士課程修了者数、大学院博士課程修了者数、本学 DNP コースに入学希望のある看護職員に対する施設管理者の意向、大学院修了者の採用計画

〔アンケート配布先〕 アンケート配布先は、(資料10：第1調査アンケート配布先一覧) に示す。

なお、アンケート結果の主要な部分を図に表したものを、(資料11-1：「大学院看護学研究科博士後期課程看護学専攻(DNPコース)」(仮称)調査1結果、資料11-2：「大学院看護学研究科博士後期課程看護学専攻(DNPコース)」(仮称)調査2結果) に示す。

〔第1調査結果〕

3,198名に送付し、回収数は391件(回収率12.2%)であった。

1. 基本属性

【性別】 女性が325名(83.1%)、男性が63名(16.1%)、無回答3名

【年齢】 20歳代が166名(42.5%)、30歳代が62名(15.9%)、40歳代が86名(22.0%)、50歳代が54名(13.8%)、60歳代が20名(5.1%)、70歳代が2名(0.2%)、無回答1名

【居住地】 千葉県安房地域(鴨川市、南房総市、館山市、勝浦市)が270名(69.1%)、千葉県安房地域以外が86名(22.0%)、東京都が20名(5.1%)、神奈川県が9名(2.3%)、埼玉県が2名(0.5%)、その他4名

【免許】(複数回答) 看護師が383名、保健師が60名、准看護師が24名、助産師が18名、その他14

名

【経験年数】 1年以上5年未満が135名(34.5%)、5年以上10年未満が59名(15.1%)、10年以上20年未満が64名(16.4%)、20年以上30年未満が87名(22.3%)、30年以上が46名(11.7%)

【所属】病棟勤務が164名(41.9%)、病院看護部が106名(27.1%)、教育機関(看護師養成機関等)が68名(17.4%)、県・市町村公務員が18名(4.6%)、外来勤務が14名(3.6%)、訪問看護事業所が12名(3.1%)、診療所・クリニックが2名(0.5%)、介護保険老人保健施設が1名(0.3%)、その他6名

【職位】スタッフが240名(61.5%)、主任が42名(10.7%)、看護師長が27名(6.9%)、教授が16名(4.1%)、助教が15名(3.8%)、講師が12名(3.1%)、助手が8名(2.0%)、准教授が6名(1.5%)、事業所・施設の経営・管理者が4名(1.0%)、副看護部長が3名(0.8%)、看護部長が1名(0.3%)、その他17名

【最終学歴】看護専門学校卒業が172名(44.0%)、看護系大学卒業が91名(23.3%)、看護系大学院修士課程修了が64名(16.4%)、看護系大学院博士後期課程修了が24名(6.1%)、大学卒業(看護系以外)が12名(3.1%)、看護系短期大学卒業が7名(1.8%)、看護系以外の大学院博士修士課程修了が7名(1.8%)、看護系以外の大学院博士後期課程修了が4名(1.0%)、その他10名

【専門的資格】(複数回答)特になしが317名、専門 看護師が42名、特定行為研修修了者が16名、認定看護師が10名、認定看護管理者研修終了者が4名、その他11名

以上のことから、回答の得られた看護職者391名は、居住地、看護職としての総経験年数、所属、職位、最終学歴、専門的資格などみて、本学大学院博士課程の入学対象者として妥当であったといえる。

2. 本学大学院博士課程 DNP コースについて

- 1) 長期履修制度については、「よいと思う」が278名(71.1%)であった。
- 2) ハイブリット型の教育については、「よいと思う」が304名(77.7%)であった。
- 3) DNP コースの構想や養成する人材像については、「よいと思う」が287名(73.4%)であった。
- 4) 本学大学院博士課程を「受験したい」が12名(3.1%)、「将来、受験したいと思う」が58名(14.8%)であった。
- 5) 受験する理由(複数回答)は、「看護の実践力を高めたい(47名)」、「看護の臨床現場を変えたい(20名)」、「大学院で行った研究を看護の臨床現場で活用したい(15名)」、「看護研究もできる臨床家になりたい(13名)」、「看護の実践家としてのリーダーになりたい」「大学院で行った研究、あるいは今行っている研究を継続して取り組みたい」がともに8名であった。

回答の得られた看護職者391名は、本学大学院博士課程 DNP コースの構想や養成する人材像について肯定的評価を示した。「受験したい」「将来、受験したいと思う」と回答した者は、看護職者(391名)のうち70名(17.9%)であり、約2割の者に受験希望があることを確認することができた。このうち、「受験したい」と回答した者は12名(3.1%)であり、予定される入学定員3人の4倍にあたる者から受験意欲を示す回答が得られた。また、「将来、受験したいと思う」と回答した者は58

名 (14.8%) であり、予定される入学定員の 19.3 倍にあたる者から受験意欲を示す回答が得られた。

さらに、受験理由の上位を占める「看護の実践力を高めたい」「看護の臨床現場を変えたい」という回答は、DNP コースで養成する人材像に合致しており、進学対象者として妥当であったと言える。

3. 受験希望と基本属性の関係

【受験希望と居住地の関係】 受験を希望する看護職者 70 名の基本属性をみると、「受験したい」と回答した者の居住地 (12 名) は、千葉県安房地域 (鴨川市、房総市、館山市、鋸南町) が 7 名、東京都が 2 名、神奈川県が 2 名、千葉県安房地域以外が 1 名であった。また、「将来、受験したいと思う」と回答した者 (58 名) の居住地は、千葉県安房地域 (鴨川市、房総市、館山市、鋸南町) が 42 名、千葉県安房地域以外が 13 名、東京都が 3 名であった。

【受験希望と所属の関係】 所属別では、「受験したい」と回答した者 (12 名) の内訳は、病院の病棟勤務が 5 名、病院看護部が 3 名、看護師養成機関が 3 名、訪問看護事業所が 1 名であった。また、「将来、受験したい」と回答した者 (58 名) の内訳は、病院の病棟勤務が 25 名、病院看護部が 21 名、看護師養成機関が 10 名、病院の外来勤務が 1 名、訪問看護事業所が 1 名であった。

【受験希望と職位の関係】 職位別では、「受験したい」と回答した者 (12 名) の内訳は、スタッフが 5 名、主任が 2 名、副看護部長が 1 名、事業所・施設の経営・管理者が 1 名、教授が 1 名、講師が 1 名であった。また、「将来、受験したい」と回答した者 (58 名) の内訳は、スタッフが 32 名、看護師長が 8 名、主任が 6 名、助教が 4 名、助手が 3 名であった。

【受験希望と専門資格の関係】

受験を希望する看護職者 70 名のうち、「受験したい」と回答した者の専門資格は、特になしが 7 名、専門看護師が 3 名、認定看護師・専門看護師・公認心理師が 1 名、特定行為研修修了者が 1 名であった。また、「将来、受験したいと思う」と回答した者 (58 名) の専門資格は、特になしが 46 名、専門看護師が 5 名、特定行為研修修了者が 3 名、認定看護師が 2 名、専門看護師・認定心理士が 1 名であった。

【受験希望と保有学位の関係】

看護職者で「受験したい」と回答した者 (12 名) のうち、修士号保有者が 5 名、博士号保有者が 1 名であった。また、「将来、受験したいと思う」と回答した者 (58 名) のうち、修士号保有者が 12 名、博士号保有者が 1 名であった。

受験希望と居住地の関係では、本学がターゲットとしている千葉県安房地域を中心に、東京都や神奈川県でも受験希望者がおり、本学が想定している千葉県を中心とした首都圏域は、学生募集地域として妥当であると考えられる。受験希望と所属の関係では、病院病棟や看護部所属の看護師を中心に、教育機関や訪問看護事業所からも希望があり、受験希望者の背景は多様であり、病院勤務の看護師のみならず、教育機関や地域など幅広い場で働く看護師の受験の可能性が伺える。受験希望と職位の関係では、スタッフを中心として幅広い職位の者から受験希望が確認できた。受験希望と専

門資格の関係では、専門看護師、認定看護師、特定行為研修修了者など、すでに何らかの専門資格等を有する者からの受験希望が確認できた。受験希望と保有学位との関係では、修士号保有者の割合が高く、本学がターゲットとする受験者にほぼ合致していた。

以上から、本学の受験希望者は、本学が設定する定員3名を満たすと予測され、将来的にも受験者が確保できる見込みである。また、居住地、所属（背景）、職位、専門資格、保有学位との関係からみても、受験希望者には本学がターゲットとして想定する者が主体となり含まれるほか、多様な背景をもった人材からも受験者が見込まれ、幅広い層から受験者が確保できる可能性があると思われる。

〔第2調査〕

〔調査期間〕 2023年10月31日から11月17日

〔回答方法〕 Micro soft Forms による Web 方式で行い、調査の任意性や個人情報の保護に十分配慮して実施した。

〔調査対象〕 本学大学院生および修了生

〔調査内容〕

1. 基本属性；性別、年齢、居住地、大学院学年、専攻領域、勤務先（所属）、職位、専門的資格
2. 博士課程 DNP コースに関する項目；長期履修制度について、ハイブリット型教育について、構想や養成する人材について、受験の意向の有無と理由)

〔アンケート配布先〕 本学看護教員 36 名、本学大学院生・修了生 51 部

〔第2調査結果〕

本学大学院生 (30 名)・修了生 (21 名) の計 51 名に配布し、16 名から回答があった (回収率 31.4%)。

1. 基本属性

【性別】 女性が 11 名 (68.8%)、男性が 4 名 (25.0%)、無回答 1 名

【年齢】 20 歳代が 2 名 (12.4%)、30 歳代が 3 名 (18.8%)、40 歳代が 6 名 (37.5%)、50 歳代が 5 名 (31.3%)。

【居住地】 鴨川市が 10 名 (62.5%)、勝浦市が 2 名 (12.5%)、館山市が 1 名 (6.3%)、その他 3 名

【在籍学年】 1 学年が 5 名 (35.7%)、2 学年が 6 名 (42.9%)、3 学年が 1 名 (7.1%)、4 学年が 2 名 (14.3%)。修了生は 2 名。

【専攻領域】 「看護管理学」 4 名、「実践研究コース在宅看護」 3 名、「実践研究コース成人看護」 2 名、「ウィメンズヘルス・助産学」「実践研究コース精神保健看護」「実践研究コース小児看護」「がん看護学 CNS コース」「精神看護学 CNS コース」「クリティカルケア看護学 CNS コース」「エンドオブライフケア看護学ナースプラクティショナーコース」が各 1 名。

【勤務先（所属）】 病棟勤務が 6 名 (37.5%)、訪問看護事業所が 4 名 (25.0%)、病院看護部と教

育機関がともに2名、その他1名

【職位】「スタッフ」4名(25%)、「事業所・施設の経営・管理者」3名(18.8%)、「看護師長」「主任」「助教」が各2名(12.5%)、その他3名

【専門的資格】(複数回答) 「特になし」7名、「認定看護師」「特定行為研修修了者」が各3名、「専門看護師」「認定看護管理者研修終了者」「ナース・プラクティショナー教育課程修了者」が各1名、その他3名

2. 本学大学院博士課程 DNP コースについて

1) 長期履修制度については、「よいと思う」が15名(93.8%)であった。

2) ハイブリット型の教育については、「よいと思う」が15名(93.8%)であった。

3) DNP コースの構想や養成する人材像については、「よいと思う」が15名(93.8%)であった。

4) 「受験したい」「将来、受験したいと思う」と回答した者は、16名のうち10名(62.5%)であった。このうち、「受験したい」が3名(18.8%)、「将来、受験したいと思う」が7名(43.8%)であった。

5) 受験する理由(複数回答)は、「看護の臨床現場を変えたい(6名)」、「看護の実践力を高めたい」、「大学院修士課程で行った研究、あるいは今行っている研究を継続して取り組みたい」、「大学院修士課程で行った研究を看護の臨床現場で活用したい」、「看護研究もできる臨床家になりたい」が各4名、「看護の実践家としてのリーダーになりたい」が2名、その他1名であった

3. 受験希望と基本属性との関係

【**受験希望と居住地の関係**】「受験したい」と回答した3名の居住地は、鴨川市が2名、館山市が1名であった。また、「将来、受験したいと思う」と回答した7名の居住地は、鴨川市が5名、富津市・千葉市が各1名であった。

【**受験希望と所属の関係**】

「受験したい」と回答した3名の所属別では、病院の病棟勤務・病院看護部・訪問看護事業所が各1名であった。また、「将来、受験したいと思う」と回答した7名の所属別では、訪問看護事業所が3名、病院看護部が2名、教育機関・無職が各1名であった。

【**受験希望と職位の関係**】

「受験したい」と回答した3名の職位別では、スタッフが2名、事業所・施設の経営・管理者が1名であった。また、「将来、受験したいと思う」と回答した7名の職位別では、事業所・施設の経営・管理者と主任が各2名、看護師長・助教・無職が各1名であった。

【**受験希望と専門資格の関係**】

「受験したい」と回答した3名の専門資格は、専門看護師・認定看護師・特になしが各1名であった。また、「将来、受験したいと思う」と回答した7名の専門資格は、特定行為研修修了者が2名、認定看護師・ナース・プラクティショナー教育課程修了者・介護支援専門員が各1名、特になしが2名であった。

〔受験希望と保有学位の関係〕

「受験したい」が3名(18.8%)、「将来、受験したいと思う」が7名(43.8%)であり、「将来、受験したいと思う」(7名)のうち、1名は修士課程に在籍中の者であった

以上から、本学大学院生・修士課程生からは、「将来受験したい」も含め、一定程度の受験希望者がおり、将来的にも定員を満たす受験者が獲得できると見込まれる。また、本学の構想するDNPコースについても高い評価が確認でき、受験する理由として、現場を変革したいという意図も本学のDNP構想と合致するものであった。

また、受験希望と居住地、所属、職位、専門資格、保有学位とのそれぞれの関係でも、安房地域を中心とした千葉県であり、スタッフを中心として管理者も含むほか、訪問看護事業者など地域で働く者も含まれ幅広い層からの受験希望が確認でき、同時に何らかの専門資格を有する者や修士号を有する者がさらにステップアップしたいと望む意向も確認できた。

これらから、本学の構想するDNPコースの博士課程には、ほぼ想定する看護人材および幅広い人材がある一定程度受験を希望しており、本学の入学要件(アドミッションポリシー)を満たす受験者を、定員3名程度満たすことは可能と見込んでいる。

⑤人材需要に関するアンケート調査

上記の調査1において、看護部長、事業所施設の経営・管理者のみ回答として、人材需要に関するアンケート調査を同時に実施した(調査1の設問16以降)。回答者は4名から16名であった。その結果を以下に示す。

1. 所属施設の属性

【所属施設の看護職員総人数】回答者10名のうち、「5人」「10人」「26人」「46人」「1,507人」「3,100人」が各1名、「4人」「14人」が各2名

【所属施設における大学院修士課程修了者の総数】回答者8名のうち、「0人」が5名、「1人」が3名

2. 大学院進学に対する管理者としての意向

【本学大学院博士課程に進学を希望する看護職者に対する施設管理者としての意向】(複数回答)(問19) 「本人の意思に任せる(6名)」、「研修制度(修学助成金など)や休職制度を利用して進学を推奨したい」「現職のまま進学を推奨したい」がともに3名

【自施設で進学を推奨したい看護職者の人数】(問19-2)回答者9名のうち、「0人」が5名、「1人」が2名、「2人」が1名、「わからない」が1名

【本学DNPコースの採用について】(問23)回答者16名のうち、「採用したい」が6名、「どちらともいえない」が10名、「採用しない」が0名

【本学DNPコースを修了した人材の採用可能性の人数】(問24)回答者4名のうち、「1人」が3

名、「4人」が1名、「10人」が1名であった

以上から、人材需要に関するアンケート調査の結果からは、看護管理者が、自施設の看護職に博士課程への進学を推奨したい意向や、本学博士課程修了生の採用の意向が確認され、本学大学院博士課程を修了した人材への一定の需要があると考えられる。

(4) 新設組織の定員設定の理由

これまで述べたように、本学の位置する千葉県の看護人材の動向、全国の看護系大学および看護系大学院の動向、高度実践看護師の動向、高度看護専門職を取り巻く社会的動向、千葉県における専門看護師等の入学対象人口の動向などから鑑みて、本学が設置予定の大学院博士課程 DNP コースは、十分な需要と必要性が見込まれると考える。

また、新設組織の学生募集地域として、千葉県を中心とした首都圏全域を設定したが、千葉県にある看護系博士課程との比較からも本学の教育課程には他と異なった特色があり、また同じ DNP コースを開設する他の大学院と比較しても本学の教育課程や入学対象の看護職者には、高度看護実践者と看護管理者双方を対象としているという点で本学の独自性があり、入学生にとって魅力的なカリキュラムとなっていると考える。これらの競合大学院の入学動向をみても、定員設定はまちまちであるが、おおむね2～3名の入学者が確保できていることから、本学の入学定員3名は妥当であると考えられる。

また、本学がこれまで実施してきた学部、修士課程での PR 活動の実績からも、それらの土台の上に博士課程の PR 活動を実施することで、定員3名を満たす入学者の獲得は確実と思われ、また将来的にも入学者の獲得が可能であると見込まれる。

学生確保に関するアンケート調査でも、入学定員3名をはるかに超える受験希望者が確認され、その居住地、所属、職位等も本学の新設組織がターゲットとする内容と合致している。また DNP コースを受験したい理由等も、「現場を変革したい」など、本学の DNP コースの設置の目的とも合致している。さらに看護管理者等を対象とした調査の結果からも、看護管理者が自施設の職員に、博士課程への進学を推奨したい意向や、本コース修了者を採用したいという意向も確認され、本学大学院博士課程を修了した人材への一定の需要も確認できた。

これらを総合した結果、本学大学院博士課程 DNP コースの定員は、3名が妥当であり、その定員確保は将来的にも可能であると考えられる。